

K-POPの系譜

金 成 政

(2)

K-POPのグローバル国際化、情報化が急速に進化は、アメリカ音楽市場へんだ1990年代に登場の挑戦と、様々な国や地域における現地化を通じて展開してきた。

K-POPが生まれる前から音楽で密接な関係のあった日本の文脈で、K-POPへの関心を一層高めたのは、9人中3人が日本人メンバーのTWICEによる世界的成功と「Nizi U現象」だろう。

TWICEが「なぜ日本の若者はK-POPアイドルを目指すのか」という問いを投げかけたとするならば、Nizi Uを生み出した韓国型オーディション「Nizi Project」は、それに応えるかのように、日米のアイドル・ポップスとは区別されるK-POPのマネージメント・システムを詳細に示した。

民主化後の世代

その両グループをプロデュースしたのは、J.Y. PARK(パク・ジニョン)。彼は「JYPエンターテインメント」という大手事務所のみならず、K-POPという音楽・産業・文化を築いた一つの「世代」を代表する存在でもある。

その世代とは、民主化と

賞 鑑

J.Y. PARKは、ちょうどその間の94年にシンガーソングライターとしてデビューした。ダンス音楽とバラードの両方で高い人気を得る一方、既存の規範と倫理に挑戦するようなフュージョンとメッセージを流し、表現の自由をめぐる社会的関心を引き起こし

グローバル化の仕掛け人



J.Y. PARK(中央) はプロデューサーとしてK-POPのグローバル化を進めた＝ロイター

た。その過程は、97年のアジア通貨危機前後、いわゆる「創造的階層(クリエイティブ・クラス)」が韓国経済の主流として浮上する流れとも重なる。

J.Y. PARKが踏んだグローバル化の各ステップは、「JYP」の所属アーティストを並べるだけでも明らかに見えてくる。ボーイバンドgodが国内市場を席巻した頃の2001年、早くも彼は自分の名前を掲げた地上波テレビの公開オーディション番組を通じて、マネージメントのプロセスを事務所の外側に開いた。その試みは、Rain) が韓国歌手と

続けた。自ら音楽事務所を設立し、プロデューサーとしての活動を兼ね始めたのは96年。その後、ソテジワイドゥルのメンバーだったヤン・ヒョンソクが立てたYGエンターテインメント、93年にR&B歌手としてデビューし、SMエンターテインメントの代表プロデューサーとなったユ・ヨンジン、95年から作曲家として活動し、後にBTSを生んだHYBEのパン・シヒョクなどとともに、K-POPのシステムを築きあげ

既存の観念壊す

「国民的ガールグループ」と呼ばれていたWonder Girlsをアメリカの主流ポップス市場に送り込んだのは09年。10年代半ばからは、GOT7(デビューは14年)、TWICE(同15年)といった多国籍グループがグローバルな成功を収めた。そして18年、中国人メンバーによるボーイグループBOY STORYが2年間の現地オーディションとJYPによるトレーニングを経てデビューした。Nizi Uのように、現地の人や業界とK-POPのシステムやノウハウを融合させる現地化戦略が本格化したのである。

このようなグローバル化の過程は、90年代からの経験が集約されたものでありながら、そのステップを踏むたびに既存の枠と観念を取り壊すものだった。今世界各地ではNizi UのようなK-POPアイドルが次々と生まれている。(北海道大学准教授)

「越境の芸術家」勅使河原宏を回顧

文化往来



勝新太郎主演のテレビ時代劇「新・座頭市III」26話「夢の旅」(79年)、「北斎」を放送。作品や作家論などで構成した書籍「フィルムメーカーズ22 勅使河原宏」(宮帯出版社)も近く刊行予定だ。

いけばなの草月流3代目家元で、映画をはじめオペラや演劇、美術など、ジャンルを超えて活躍した芸術家・勅使河原宏(1927-2001年)の写真を、4月で没後20年となり、回顧の動きが広がっている。とりわけ注目されたのは、独自の映像表現だ。東京美術学校(現在の東京芸術大学卒業後の53年、短編美術ドキュメンタリー「北斎」で映画監督デビュー。その後、劇映画にも手を広げ、小説家・劇作家の安部公房や作曲家・武満徹ら前衛芸術の才能を集結して、数々の映画を手掛けた。「砂の女」(64年)でカンヌ国際映画祭審査員特別賞を受賞し、シニールな独自の映像美は内外で高く評価された。東京・渋谷のシネマヴェーラ渋谷は「没後二十年記念 アートを越境する」勅使河原宏という天才」と題し、18日まで特集上映している。「北斎」「砂の女」のほか、美術に磯崎新を迎え、仲代達矢らが出演した「他人の顔」(66年)、三國連太郎主演「利休」(89年)などを上映する。イサム・ノグチと勅使河原が照明と陶芸作品を展示する過程を捉えた80年の「二人展」など、自身が携わったイベントを記録した短編映像も興味深い。シネマヴェーラ渋谷の内藤由美子支配人によると、草月会の倉庫に眠ったままだった大量の映像の中から選んだもので、ナレーションを入れるなど凝ったつもりだったという。時代劇専門チャンネルでは「映像で魅せる奇才 勅使河原宏の描く時代劇」(26日夜9時)として「利休」

インタビュー旅行

(127)

萩原 浩
タケウマ 画

III. どつすれば元の世界へ戻れるだろう

この世界の内外のニュースには、最初こそ驚きの連続だったが、いつのまにか慣れた。まったくの未知ではなく、奇妙なズレやネジレのような違いばかりだからかもしれない。

アメリカ合衆国の大統領は、ヒラリー・クリントンからドナルド・トランプに代わったばかり。トランプ新大統領は、中国を訪問中で、メキシコとの国境に築くと公約したグレートウォールの参考にするために、昨日は万里の長城を視察したそうだから、いまのところ米中関係は良好だ。英国からはスコットランドが独立していた。去年の東京オリンピックの男子サッカー準決勝、英国対スコットランドは大会史上に残る盛り上がりだったそう。スコットランドがPK戦の末に勝利したからなおさら。

ペロペロを調べてみるか。こうしてなんでもかんでも検索してしまうと、実際に体験する時の感動が薄れてしまふんだよね。これじゃあ、いかんぼんこの好奇心にはプロセスが大切なのだ、などと誰に向けてかわからない説教を心の中で垂れながらも、指は動いてしまふ。



検索欄に文字を打ちこもつとして、妙なことに気づいた。

ニュース スポーツ 話題 ビジネス などなどの項目が並んだタブの中に、『野崎』という文字が浮かんでいたのだ。まるで項目のひとつのように。

ニュース スポーツ 話題 ビジネス 野崎なんだこれ? タップしてみた。

出てきたのは広告も、貼られた画像もない、文字ばかりが並ぶ画面だ。ひと昔前の2ちゃんねるを見ているようだった。こんな見出しがあった。

【野崎 認知症】 は? なんかアタマ痛くなってきた。こめかみを叩くようにタップする。投稿が連なっていく掲示板式ではなく、記事らしき文章が現れた。

『帝通プランニング企画一部の野崎修作(40)が認知症系の病気にかかったことが判明した』 それは、私に関するニュースだった。

漫画家

柴門 ふみ (3)

こころの玉手箱



第1回コミケにも出品するなど歴史は長い

掲示板の合格者一覧に私の名前があったよと、姉から電話で告げられた。実家に居た私に代わってすでに東京で大学生活を送っていた姉がお茶の水女子大まで出向いて確かめてくれたのだ。

高校2年まではそこそこ頑張った成績を上げ、京都大学も夢じゃないと教師から励まされていたのだが、『ジェレミー』の漫画を描いたあたりから勉強がどんどんおろそかになり、成績も下降線をたどった。3年生の夏、京大はとも無理解だと判定が下り、当時

受験科目が英・数・国の3教科だったお茶の水女子大に第1志望を変更した。当時英語と国語は自信があったが、数学はひどいものだった。けれど入試では奇跡が起き、数学で点を取ることができ、晴れて合格できたのだ。

プロの夢かなう契機に

大学時代の同人誌「ぼるぼる」

高校時代親友に「京大に入ると漫画家になるのが私の夢」と語ったことがある。するとなぜか彼女は自信たっぷりに「京大はどうかかわからないけど、漫画家には、なれる!」そう断言して、私の方をどきまきした。高校卒業まで私は完成した漫画作品を一本も描いておらず、とつてい漫画家になれるはずもないと思っていたからだ。夢は、夢。大学を卒業したらお見合い結婚して主婦になるか、あるいは縁談がまともならなければ美術

館勤めの学芸員になろうと考えていた。しかし運命の流れというのは、確実にあるのだ。大学入学後、構内を歩いていた私の目に1枚のポスターが飛び込んできた。少女漫画タッチで描かれた目の大きな美少女のイラストの横に「来たれ! 漫研へ!」の大きな文字が。その日のうちに私はそのポスターの作者、湯田伸子さんに連絡を取り、お茶の水女子大学漫画研究会(通称お茶マン)の部員となったのである。お茶マンは、のちにプロ漫画家になった湯田さんと、小勝禮子さん(現在美術史家として活躍中)が、私が入学する前の年に創設。できたてはやはやのサークルだった。当初は5名ほどだったが、会誌「ぼるぼる」を発行し第1回コミックマーケットにも、出品した。そしてこの『ぼるぼる』に発表した作品が講談社の編集者の目に留まり、私のプロ漫画家デビューに繋がってゆく。

横内 謙介さん 舞台「スマホを落としたけなのに」



劇団扉座を主宰する劇作家で、人気漫画「ワンピース」を原作にした「スーパース」を原作にした「スーパース」など独創的な作品を手掛けてきた。映画にもなった志賀野のミステリー小説「スマホを落としたけなのに」の舞台版(14日まで、日本青年館ホール)で脚本・演出を担う。

演劇の「武器」で葛藤描く

「すくよくよできた原作だけど、それより面白かったと言われた。演劇ならではの武器を使う」。舞台は連続殺人犯の取り調べシーンから幕を開ける。主人公の若手刑事は、犯人と自分の間に実はいている部分があることに気付いていく。スマートフォンを駆使した犯罪の恐怖を描いた原作に対して、登場人物の感情を丁寧に描写することを心がけた。「演劇は話を知

つつうえで見ても面白い。主人公が死のうが生きようが、そこにいたるまでの葛藤を描くものだ。特に推理劇では、ストーリーに頼りすぎてはいけない」。昨年3〜4月の初演では、新型コロナウイルスの感染拡大で千秋楽を迎えることがかなわなかった。ジャニース事務所所属の辰巳雄大や浜中文一、アイドルグループ「乃木坂46」の早川聖来らメインキャストを務める若手には「この1年間、役や作品についてはもちろん、演劇について考え醸成されたものがあって、どう」と期待を寄せる。

劇団扉座の40周年記念公演も控える。杉田玄白を題材にした戯曲「解体屋茶屋」を書き下ろした。「特定のメソッドを持たずにやってきたからこそ40年間やってこられた」と振り返る。コロナ禍のいま、「たまたま演劇を見に来る人は少ないだろう。これまではエンターテインメントとして間口を広げる仕事に重きを置いてきたが、演劇の奥行きを出す時期に来た」。